

特集

助産師は父親を どう支えるか

父親学級の開催は増え、イクメンという言葉が世間に馴染んで久しいですが、母親の負担や産後うつはなかなか減りません。それはもちろん父親だけの責任ではありませんが、母親の負担を少しでも減らすためのキーパーソンが父親であることは間違いないでしょう。子どもを迎える家庭において、母親の心身をよい状態に保つために、助産師はどのように父親にアプローチすればよいのでしょうか。妻と夫の溝を埋めるための支援について考えます。

